

R9年度入試より「地域志向教員枠」が小学校コース・総合型選抜Ⅱに導入されます！

教育学部学校教育教員養成課程初等中等教育専攻小学校コースにおいて、令和8年度に実施する令和9年度入学者選抜（総合型選抜Ⅱ）から、募集人員25人のうち、5人を地域志向教員枠とし入学者選抜を実施します。詳しくは「入学者選抜要項」「学生募集要項」をご覧ください。



どのような人におすすめ？

- ・青森県採用教員として教職を目指す強い意志がある人（出身高校、出身地等地域の制限はなし）
- ・地域の教育課題の解決に意欲的に取り組もうとする人



どのような入試なの？

- ・大学入学共通テストの得点，集団討論，個人面接及び出願書類（志望理由書及び地域志向教員志望理由書）の評価を総合して選抜を行います。
- ・個人面接は，一般枠と同内容の面接に加え，地域志向教員枠独自の面接を行います。
- ・地域志向教員志望理由書は，地域教育課題についての問題意識，地域での活動履歴等の記述に基づき，地域志向教員としての適性を評価します。



入学後はどのような学びが待っているの？

- ・「地域志向教員養成プログラム」の履修が必修となります。
- ・地域の学校教育現場からの要請に応えるため複数免許取得を卒業要件とし，小学校教諭一種免許状に加え，中学校教諭一種若しくは二種免許状（技術）又は中学校教諭一種若しくは二種免許状（家庭）の取得が必須となります。
- ・入学後は技術・家庭科サブコースに所属します。

Q&A よくある質問にお答えします！

Q. 地域志向教員枠で入学すると、教員採用試験でメリットはありますか？

A. 地域志向教員枠で入学し、「地域志向教員養成プログラム」を修了した学生のうち、大学が推薦する者については、青森県公立学校教員採用候補者選考試験（小学校教諭）の第一次試験の一部が免除される見通しです。また、地域の学校や教育課題について学びを深めることで、教員採用試験や教職への円滑な移行につながることが期待されます。

Q. 卒業後は必ず青森県の教員にならなければなりませんか？

A. 地域志向教員枠は、青森県採用教員として教職を目指す強い意志がある人を出願要件の一つとしています。ただし、卒業後の就職先や勤務地を義務付けるものではありません。

問い合わせ先

本プログラムについて質問などがある場合は、下記にお問合せください。

◎ 授業内容・カリキュラムについて

人社・教育事務部総務グループ教務担当（教育） TEL 0172-39-3939

◎ 入学試験について

入試課 TEL 0172-39-3122・3123



教育学部 HP



子どもたちのウェルビーイングの実現を目指して、
地域という視点から学びと育ちをデザインできる教員を養成します

地域志向教員養成プログラム

— 弘前大学 教育学部 —



地域とは、単に「学習の素材」ではありません。

子どもたちが育ってきた環境や経験、人とのつながりが積み重なった場所です。

本プログラムは、三つの「つなぐ」をコンセプトに、そうした地域での経験を出発点にしながら、子どもたちの未来を切り拓く学びと育ちをデザインできる教員を養成します。

三つの「つなぐ」



教科と地域をつなぐ

地元の「宝（地域材）」を科学的に分析し、生きた教材としてカリキュラムに取り込みます。



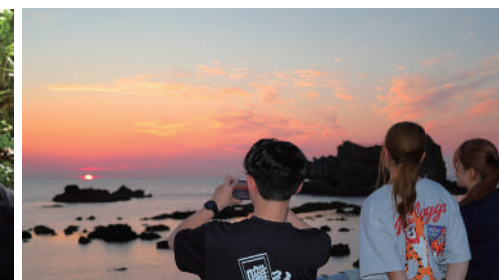
人と人をつなぐ

学校内のコミュニティと地域の専門家や情熱ある人々とのつながりをコーディネートします。



これまでとこれからをつなぐ

子どもたちが育った歴史を尊重しつつ、新しい未来の可能性（エージェンシー）を育みます。



本プログラムは教育学部のすべての学生が履修可能です。また地域志向教員枠入学者は必修となります。

R9年度
始動！



地域志向教員養成コア科目群

地域を“知る”から、“実践を構想する”へ

この科目群は、「副専攻プログラム」と「地域志向実践科目群」での学びを、地域志向教員としてどのように統合し、地域に根差した教育実践を構想していくかを考える中核的な科目群です。「地域志向教員概論」（理論的理解）→「へき地・小規模教育概論」（現実的課題への接続）→「地域志向教員演習」（教育実践構想）という流れで、学びを深めます。



対話を通して学びを深める



子どもの声に耳を傾ける

三つの科目群
で高める

「地域志向教員」
としての
専門性

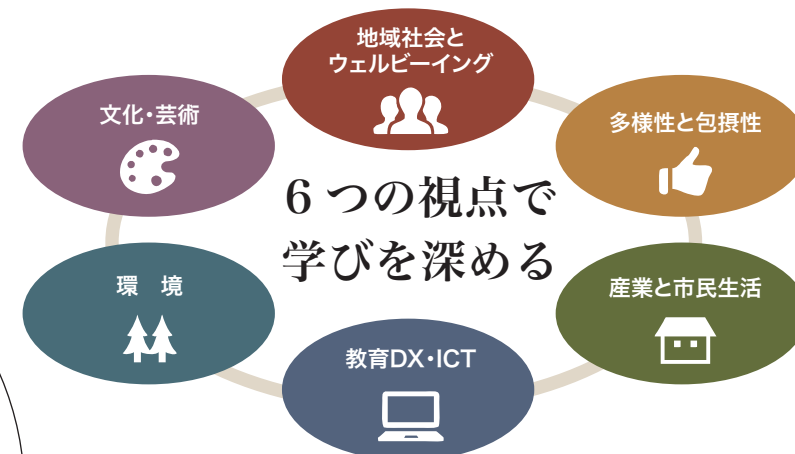
「地域志向教員養成
コア科目群」を中心にすえ
ながら、「副専攻プログラム」
での学び（理論）と、「地域志向
実践科目群」での学び（実践）を
往還・融合させながら、「地域志
向教員」に求められる「専門
力」と「実践力」を高め
ていきます。



副専攻 地域教育課題解決を志向する 教育プログラム

総合大学ならではの副専攻で広がる学び

本副専攻プログラムでは、「地域社会とウェルビーイング」「多様性と包摂性」「教育 DX・ICT」「文化・芸術」「環境」「産業と市民生活」の6つの視点から、子ども・学校・地域が抱える課題について学びます。教育学だけでなく、多様な学問分野の知見を活かしながら、地域の課題を総合的に理解し、その解決に向けて考える力を身につけます。



本副専攻プログラムの
詳細は下記 QR コード
からご覧下さい



地域志向実践科目群

地域に行く・子どもと出会う・学びが始まる

深浦町をフィールドとし、地域に滞在し、子ども・学校の様子や地域の自然・文化・産業等について体験的・実践的に学ぶ科目群です。1年次の「地域志向フィールド演習Ⅰ」で地域を知り、2年次の「同演習Ⅱ」ではより深く調べます。3年次では複式学級、4年次ではへき地・小規模校での教育実習が体験できます。



地域に出て学ぶフィールド体験



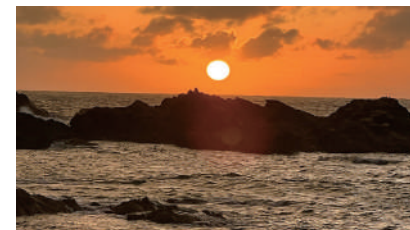
地域の伝統文化を体験

その一歩が見方を変えた！ 深浦町での地域滞在型演習参加者の変容



参加前

「小規模校は、人数が少なくて大変そう」
「へき地教育は制約が多いのではないかな」
そんなイメージを持っていました。



実習での経験

実際に学校を訪れ、子どもたちや先生方と関わる中で、学年を越えたつながりや、子ども一人ひとりに丁寧に関わる姿を目にしました。また、地域と学校が一体となって子どもを支えている様子にも触れました。



気づいたこと

「へき地・小規模教育への印象が一変し、視野が広がった」「小規模校の良さや課題を、体験を通して具体的に考えられるように思った」これまで“イメージ”だったものが、実際の教育として理解できるようになりました。



現在の視点

今では、へき地・小規模校は「難しさ」だけでなく、子どもとの関係性や学びの可能性が見えやすい場だと感じています。

